

「卓球、人との出会い」

○千葉大学卓球部

大学入学時から様々にお世話になった方を紹介したい。白川誠之氏、阿久津文彦氏ともに日本卓球協会に貢献した本学 OB で、阿久津氏は筆者学生時代の卓球部監督であった。

全国規模の卓球会場では白川氏よりたびたびお声をかけていただいた。協会理事の傍ら、競技普及のため有料卓球チャンネルの紹介を満面の笑顔でされていたことが思い出される。「わかりやすい卓球ルール」著者である。

また、阿久津監督ご夫妻とは近年、全国教職員大会のたびにご一緒し、国際審判員として世界各国でのエピソード等をお聞きする機会を得ている。お二人ともに卓球に関しての話題には事欠かない。

そしてもう一人、卒業後も全国教職員大会等に出場し優勝もされている女性。熱田さんは千葉県代表としても活躍したカットマンである。同世代の方にはご存知の方もいるのではなかろうか。本学歴代で傑出した戦績を誇った。残念ながら先年お亡くなりになりました。

～1981年「夏」大学1年の出来事から～

○全国国公立大会

たった一度参加したのは1981年の東北大会。対戦相手は曾山氏（東学大）一級上の方、セットオールで敗戦。東北まで来て何たることか、おまけにその後の関東学生リーグ戦でも再戦、同様に敗戦。実は大学卒業後に、東京都の教職に就いたところ、同じ学校で再会。社会人では同じチームでしばらく練習しました。つい先日メールで旧交を温めました。お互いに忘れはしないものです。

○国公立合宿

筑波大が主催だったのでしょうか？沼津の合宿所で全国の国公立大卓球部から選抜され？学生が集まった。卓球研修会だったのでしょうか。加藤氏、榊原氏（ともに筑波大）が世話役で参加されていたが、全体に大変レベルが高く、夜間練習で両氏と遅くまで練習したが1セットも取れずとても悔しい思いを、その時点で自分のレベルの低さを認めることができないというほろ苦い記憶として残っている。その後、加藤氏とは東京都の教員としてご一緒する機会を得、現在も親交が続いている。また榊原氏とは全国教職員大会で再会、何十年がたってもほんのひと時、過ごしたことを互いに記憶していたことに感動した。

この沼津合宿の終了後、どなたの誘いかは失念したが、千葉・検見川で行われる東大合宿にそのまま参加。トップリーグでは一級上の幡鎌氏（東大）、飯塚氏（埼玉大）、岡野氏（一橋大）、の三人が傑出しており目標であった。現在、岡野氏とは東京のクラブチームでご一緒している。（この原稿を書いている最中に約40年ぶりの再会を果たすという奇跡のようなオマケ付きである。）東大合宿は早朝、準備体操の後のランニングが距離、スピードともにきつかった。合宿所食堂にはメキシコオリンピック銅メダルのサッカーチームの写真などが堂々飾られていたと記憶する。

～限られた条件で私学を超える～

○公立高校から千葉大学そして東京都の教員へ（ヒト・モノ・カネそして時間）

筆者出身は千葉市内の公立高校である。市内の卓球トップ校はもちろん私学である。選手は地域の中学校から有望な人材が集められ、練習場は備えられており、専属の技術コーチもおり、そして練習時間は十分すぎるほどである。どうしたらトップ校を破ることができるのだろうか。限られた条件で様々な工夫し私学を超える。この時から私にとって卓球のテーマとなった。高校時代は練習のほとんどを「フットワーク」、「三球目攻撃」、「ダブルスのレシーブ」に絞り込んでいたと記憶している。功を奏したか、我々は3年生の春、ようやく市内のトップ私学を破ることができた。（私の最初の成功体験であった）

大学は3部昇格直後に筆者が入学したため、周囲は3部残留が目標だったのでしょうが。一人ひそかに2部昇格を目標にしていました。（過去の成功体験とは恐ろしいもの）2年の秋にチャンスは訪れたが、慶応に敗れ2位に。翌年の3年次は主将として「筋力トレ」、「フットワーク」、「三球目攻撃」、「ダブルスのレシーブ」に絞り込んだ練習を行うとともに、戦力として4年生を何とか練習に参加するよう説得、有望な後輩たちを強化し、リーグ戦に勢力を集中して臨んだが、結果は春秋ともに3位に。しかし、副産物が。自身に意外とコーチングの資質があることを発見。教職に就くことを考えるに至った。

東京都の高校教員となり、2校22年間顧問として指導。東京都の私学の壁は高く厚く頑強であった。ダブルスでベスト8、団体戦はシード校と対戦するがいずれも敗れる。ただし、都内公立高校の大会では団体戦優勝3回、個人戦でチャンピオン3人を育てるに至った。

～わが子のことを少しだけ～

それぞれが小4、小2、保育園児の頃より3人の子らは埼玉川口市の卓球場に通い始めた。川口卓球ジムという風変わりな卓球場へ。鈴木朝夫氏は私の父の世代である。地域の子供たちを集めてチームを作っており厳しい躰指導で知られていた。鈴木氏は面識のない私のことをひどく気に入ったようで以来、約20年お付き合いが続いた。（鈴木氏は昨年亡くなる）鈴木氏の指導のおかげでカットマンの長女は地元の公立高校から出場した関東大会で優勝。（予選から決勝まで1セットも落とさずにはびっくりでしたが・・・）

大学は、「福原愛」と一緒に早稲田入学へ。卒業後もコーチとしてせっせと高田馬場通いが続いている。保育園児であった次女は小6の時、あれよあれよと全国ホープスの部の決勝進出、相手は先日引退を発表した「石川佳純」さんであった。高2の埼玉インハイは地元埼玉から公立高校としてチーム出場を果たした。

いずれのかかわりも「卓球、人との出会い」である。昨年、60歳の定年を迎えたことを機会に少しずつ自身の卓球を再開している。戦型は「ペン表」、ただし、再始動に当たり裏面にラバーを張ることにした。中学で卓球を始めたその年に千葉市内に新しく卓球専門店が開業した。その店主から私は卓球を教わったのである。元日本代表の井上哲夫氏である。だから「ペン表」なのだ。「卓球、人との出会い」まだまだ続く。